

令和4年度 第1回 図書館そだち会議

日時：令和4年(2022年)5月26日(木)

午後2時～3時30分

場所：湯原図書館

一般参加者：3人、振興局・図書館：9人

1.開会（福井館長）

2.自己紹介

3.「よい図書館とは？」振り返り（上杉参事）

「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」について

⇒有志の人たちがいいなと思う図書館を推薦する

前回挙げた図書館の説明

- ・ 都城市立図書館（宮崎）
 - …廃業になった商業施設を利用して図書館に
- ・ えんぱーく 塩尻市市民センター（長野）
 - …子どもの本コーナーと子育て支援センターが隣り合う複合施設
- ・ 札幌市・図書情報館（北海道）
 - …本の貸し出しをしない。その代わりに、そこへ行けば必ずその本が読める
- ・ オガール（岩手県柴波町）
 - …町を0から作り、町の中心的な施設
- ・ 武蔵野プレイス（東京）
 - …地下のフロアすべてが10代向け、本だけではなくスタジオなども完備。大人は利用出来ない
- ・ メディアコスモス（岐阜）
 - …子供は未来の声として、少々子供が騒いでも寛容に対応。子どもの居場所づくり。建物に竹を使用したり、いろいろなソファを置いたりデザインが変わっている
- ・ 仙台メディアワーク（宮城）
 - …3.11の直前にできた。被害のアーカイブを保管。市民と一緒に取り組んでいる

☆いい図書館の共通点⇒図書館と地域の方が連携している

4. 前回までに話し合ったことの振り返り

前回の会議で、本の帯を利用した七夕のイベントを行うことが決定していることを説明。

5. 図書館でやってみたいこと座談会

【前半】七夕での帯の利活用

- ・帯に願い事を子どもたちに書いてもらい、竹をテラスに置く。七夕後、廃棄ではなく、帯をラミネート加工してから返し、しおりとして使ってもらう→どうやって返すかが問題。
- ・七夕で終わりはもったいない。継続性を持たせて、地域に根差したものにしたい。七夕のあとは帯の短冊を館内に飾るのは？→完結したイベントにするか否か。完結させたほうがいいという意見も。
- ・願い事ではなく、帯の内容とつながりのある「こんな本あったらいいな」を書いてもらう。→子どもは色や形で選ぶので、少し難しい。大人対象のイベントになってしまう。
- ・湯原図書館は子どもたちが来にくいので学校にPRしたい。学校に笹を置けないか？→学校で書いたものを湯原図書館に飾ったほうが、「図書館に行ってみよう」につながる。
- ・本を読んでみて、その本の帯を考える→中学校の授業で実施している。
〈実際に帯を見て議論⇒様々な帯があって、内容も面白いと好評〉
- ・「好きな帯を選んで願い事を書く」というシンプルな内容のほうが、自由度があって幅を持たせられていい。主催者がいろいろ決めて縛らないほうがいい。
- ・帯を選ぶと、その本の中身が気になる人もいるはず。本は図書館に用意しておいたほうがいい。

〈開催期間〉七夕の1か月前くらいから、必要な材料の段取り、広報準備

【後半】○その他やってみたいこと

- ・中央図書館でのイベントについて報告・紹介（西川館長）
「ひと箱図書館長」…推しの本を持ってきて箱に入れる、好きなことに関する本を入れる
「七輪で食べよう」…七輪だけを置き、食べ物を持ち寄り

「巨大オセロ」「玄関付近の地面への落書き」

→それぞれ、会話が生まれる。問いは一つでも、答えはたくさんあり、
違っていただほうが楽しく、面白い場になる。

七夕は持ち寄りの基本。絶対楽しくなる。

- ・湯原でも七輪を置いて何かできないか。
- ・湯原文化祭で箱を使って何か展示をしたい（地域の人とタイアップしたい）
→個人で徹底的にやっている人を掘り起こし
- ・箱の中身を工夫する。
例)「我が家の家宝展」「形見展」→「何コレ？」から対話生まれる

◎本は後からどんなことにもついてくる。どんなジャンルでも対応できる。

5.閉会

次回の日程は連絡せず。頻繁に行いたい旨だけ伝える。

あいさつ（福井館長）

【配布物】

令和3年度議事録